

活動報告書

2023

vision

障害や難病^{※1}を越え、互いに学び合い、
誰もが自らの望むように生きられる社会

 THINK
 POSSIBILITY

「社会参加を身近に」

 THINK
 UNIVERSAL

「知らないを知る」

※1 難病：私たちは、国が定める指定難病の他に希少疾患や研究途上の難治性慢性疾患などを含めて難病としています。

※両育（りょういく）とは：立ち上げ当初の活動の中で、知的障害や発達障害のある子どもたちとの関わりから生まれた私たちの造語です。
支援する一されるの関係ではなく、お互いが関わり合い、試行錯誤しながら学び合い、育み合って生きていくという概念を表しています。

 両育わーるど

VISION/MISSION

ビジョン / ミッション

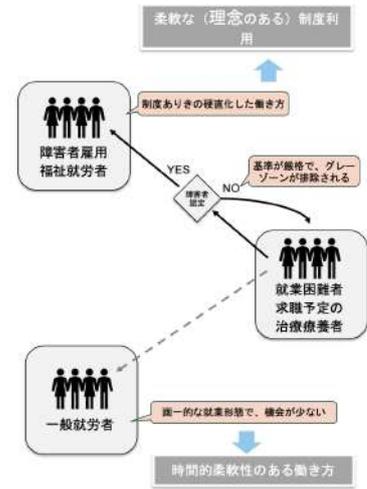
2023年度は、たくさんの新メンバーを迎えて、今後5年間の中期目標を立案しました。社会課題に向け VISION と MISSION のもとの方針を作成し、5年後のゴールに向けてスタートをきっています

我々が考える社会課題

難病と障害の当事者を取り巻く社会は硬直化していると私たちは認識しています。その中で、両当事者は社会参加の機会が大幅に減少しており、社会制度上（福祉政策・就労政策）の狭間で働きにくさを抱えています。障害と難病は制度上は異なる定義の用語ですが、本来は通底する問題があり共通課題が存在していると考えます。その点は、次のように表現できると認識しています。

1. 必要な人に制度がとどかない
2. 持てる力を発揮できない

この課題の背景には、当事者の実態と社会課題としての理解にズレがあることが大きく影響していると、私たちは捉えています。



団体のかかげる VISION / MISSION のもとメンバー丸となって、目標に向けて STRATEGY / BUSINESS の形態で一貫してぶれない持続可能な活動を進めています。



VISION / MISSION ~実現したい社会・世界~

障害や難病を越え互いに学び合い、誰もが自らの望むように生きられる社会の実現。多様な背景・困難のある人たちの柔軟な働き方や、社会参加の選択肢が集まっている団体。そんな社会と世界を目指しています。

STRATEGY / BUSINESS ~知らないを知る・社会参加をもっと身近に~

知らないを知るとして、THINK UNIVERSAL の活動を進めています。それは、当事者・非当事者の相互の歩み寄りの促進であったり、当事者の障害・難病による二次障害・副次的な認知の歪み・偏りの解消です。

社会参加をもっと身近にとして、THINK POSSIBILITY の活動も進めています。白書の作成と発行、研究会活動や議員勉強会などの開催。その活動を通して、難病と就労の課題が社会で取り上げられる機会を増やすことを目指すと共に、結果として政策への反映により VISION 実現へ向け邁進しています。中期的にはデータ活用など、更なる取り組みも目指しています。

5カ年方針

各自の困難・背景を持ち寄り、その解消を自分たちで実践し社会へ提示する

私たちの掲げるビジョンの現実のため政策・制度の提案

私たちの掲げるビジョンと社会課題の認知を上げ、応援者を獲得する

2028年度ゴール

5カ年の方針とゴール

VISION / MISSION を踏まえて、私たちが考えた、これからの5カ年の方針と2028年度のゴールです。社会と両育わーどが一体となって実現を目指します。

団体	社会
障害・難病と歩み寄り・相互理解を後押しする団体として認識され、企業・メディア・行政の相談先として声が掛る。「難病と働くなら両育わーどに」	困難を抱える誰もが周囲へ声を上げ易くなり、社会が寛容になっている。障害と難病が同等に認識され、調度の内外です労機会が向上している。

Activities 事業内容

THINK
UNIVERSAL
“知らないを知る”

23年度は、コロナの影響が軽減され、明るい兆しを見せました。新メンバーが増え、私たちの活動もより多様性に富んだものとなりました。新しい研修プログラム「THINK DIVERSITYxヒューマンライブラリー」のプレビューを6回行い、24年度には複数の企業に提供する予定です。

ポスター制作・展示

さまざまな障害や疾患のある当事者がモデルとなり、ポスターの制作・展示による理解啓発活動

展示実績：各種イベント・大学、公共交通機関など

50か所以上、ポスターモデル26名



THINK BOX

障害や疾患の疑似体験を通して、他者とのコミュニケーションを考え、多様性理解を深めるためのワークショップツール「THINK BOX」の制作及び体験会や研修の実施

累積提供数：25回提供以上・860名



ヒューマンライブラリー

障害や疾患のある人を中心に、社会的マイノリティの偏見を減らし、相互理解を深めるために、『人（当事者）を本に見立て、読者に貸し出す図書館』という意味で、『読者（参加者）』と『本（当事者）』の交流機会の提供

ヒューマンライブラリーとは：デンマーク発祥の多様な人たちの相互理解を深める対話手法

開催3回・累計参加者80名



THINK DIVERSITY ～知らないを想像する～

障害や難病のある方のシンプルな情報から、生活・就学・就労の場でのような実情があるのかを想像し、ご本人との対話を通して相互理解を深める、体験型ワークショップ。

オンライン開催も可能。

Preview6回・45名以上に提供（5月から企業向け提供開始）



メディア情報（TU関連）



『月刊・難病と在宅ケア』にTUメンバーが体験談を執筆しました
2月号松本広海・4月号鳥越勝



2024年3月
遺伝性疾患プラスにおいて、RDD西育わーどとの「THINK DIVERSITY」イベントが取り上げられました。
特に、筋ジストロフィーの当事者である鳥越勝さんのグループに焦点が当てられ、彼の体験談やディスカッションの内容が紹介されました。

2024年度目標

今後の予定

- ・TDプログラムの正式リリース
- ・既存プログラムのブラッシュアップ（リユース/サプライ）
- ・周知・啓蒙ポスターの充実化



ノックオンザドア株式会社 林 泰臣さん

両育わーどとの重光さんとお話しを重ねるごとに、多くの学びを頂くと共に、熱意と行動力に経営者として、刺激をもらっています。私もてんかんや認知症など難治性の疾患の当事者やご家族とお話しする機会が多い中、治療のこともそうですが、それよりも暮らしのこと、とりわけ、就労のことについて多くの悩みや課題を聞くことができました。病気を持っていてもその人らしく生きていく社会、その実現に向け調査、啓発、政策提言と着実に課題解決に向けて力強く進まれる姿に、多くの人々が惹かれ、巻き込まれ、必ずやビジョンが実現されると確信しています。

微力ながら私も惹かれる1人として、共に進められればと思っています。これからも応援しています。

医療過誤原告の会幹事 井上 恵子さん

初めて両育わーどとの重光さんとお話したのは、「くすり与生活」というプロジェクトにゲストで登壇されたときでした。私はホストとしてお話を伺ったのですが、ご自身の症状を見事に可視化し、一目で分かるようにまとめられたスライドに目が釘付けになりました。客観的な視点と共に語られる心の中が深く胸に沁み、病気だけではなく、社会的な問題にまで視線を向けていることに感動したことを覚えています。生きていく上で社会参加は欠かせないという信念のもと、社会参加が難しい難病者に広くに光を当て、社会参加に向けて政治・行政・企業に働きかけて行こうとする真っすぐで前向きな姿勢が、人々



株式会社電通 外崎郁美さん

会社の取り組みで両育わーどとの重光さんと出会い、THINK UNIVERSALのポスターとワークショップツールを制作させていただきました。ご自身に難病がありながら、障がいや難病、希少疾患がある方がどうしたらもっと社会参加できるかを常に考え、行動し続ける重光さんの生き様に、私はいつも勇気をもらっています。SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」という言葉も、多くの企業に浸透し始めている「DE&I」の概念も、企業が新たな仕組みや施策を導入するための後押しになっているはずですが、仕組み以上に大事なのが、一人ひとりの向き合い方だと感じます。壁とは何か。配慮とは何か。自分自身に問い続けたいと思います。

株式会社イースマイリー**代表取締役 ソーシャルインパクトデザイナー 矢澤修さん**

両育わーどとは、2016年に出会ったのですが、その当時はちょうど前に経営をしていた会社を退き、新しく社会課題解決を目的として現在の株式会社イースマイリーを設立するタイミングでした。

すぐにはご一緒する機会は無かったのですが、社会起業塾で私の当事者と家族のコミュニティプロジェクトのフォローアップをお願いしたことがきっかけとなり協働させていただく機会が増え、「働く」をテーマとした様々な取り組みに参画させていただきました。ご自身の体調と付き合いながら、色んな方を巻き込み、取り組みを前に進めていく姿を見て、自分ももっと頑張らないと!と、背中を押していただいています。一步一步、実現されていく両育わーどどの取り組みを、大きなインパクトにしていくべく、これからもご一緒させていただけたら嬉しく思います。

**元会社員／団体役員 森一彦さん**

両育わーどとの出会いは、「はたらく難病ラボ」にクローン病の当事者として呼ばれたことがきっかけでした。私は2023年末まで、障害者の就労移行支援の現場に8年半いましたが、やればやるほど暗澹たる気持ちになりました。共生ではなく分断としか思えない法定雇用率ありきの風潮、DE&I経営とはほど遠い障害者雇用の実態。一方、制度のはざまに埋もれてきた難病者の雇用は、手つかずであるが故に、可能性が広がっています。難病者の雇用から見てみると、障害者雇用のひずみや、社会や職場のひずみまでが、浮かびあがってきます。両育わーどどの取り組みは、まさにそこを照射し、蹴りを入れてくれるものと期待しています。

東京医科大学・瀬戸山陽子

私は障害のある人の教育について研究活動をしているなかで、「学ぶことは生きることそのもの」だと感じています。教育・学習は知識や技術を習得するにとどまらず、社会で人間関係を構築し、やりがいを得る営みだからです。両育わーどが活動する「はたらく」という領域もまた、個人的には経済活動であることもそうですが、社会との多様なつながりを作り、自分が誰かの役に立っているかもしれない感覚を得られる営みだと思います。だからこそ一人ひとりに合ったはたらく形が必要です。

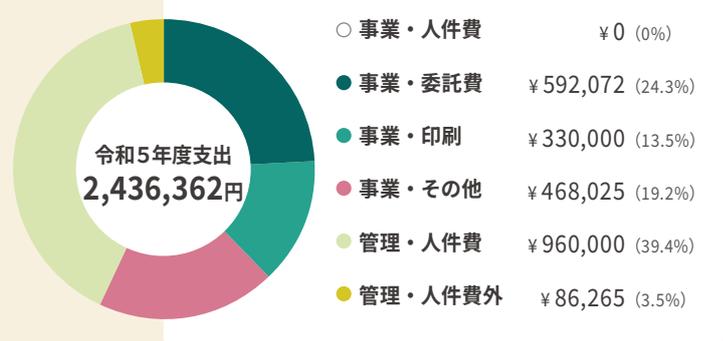
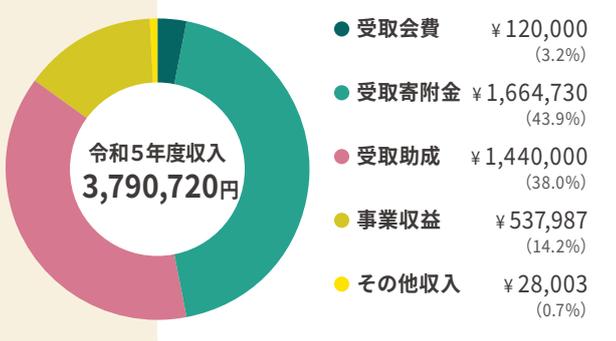


今の社会はまだ多数派仕様になっています。両育わーどどの活動から、障害や疾患があってもその人らしく働く新しい形が生まれることを、慢性の痛みの当事者の一人として期待しています。

令和5年度収支

令和5年度は前年度比で収入増だったものの収支としてはマイナスに転じています。主な収入(左図)は受取寄付金で1,664千円の44%、受取助成で1,440千円の38%で、このふたつで大半の82%を占めています。令和5年度は事業収入が537千円。昨年度比4倍増ではあるもの事業収入を増やすことが課題です。令和5年度は当初目標の通り組織体制の整理や、HPのリニューアルなど情報発信の改

善、中期計画の立案を進めています。主な支出(右図)は事業委託費1,521千円、印刷製本費の1,845千円で、こちらふたつで3,365千円の支出全体の87%を占めています。支出の課題は、事業費関連の発生費に応じた収入増と効率化のバランスを取った事業経営です。令和6年度は当課題を踏まえて、各事業ごとにも組織体制強化と中期目標を策定して運営を開始しています。



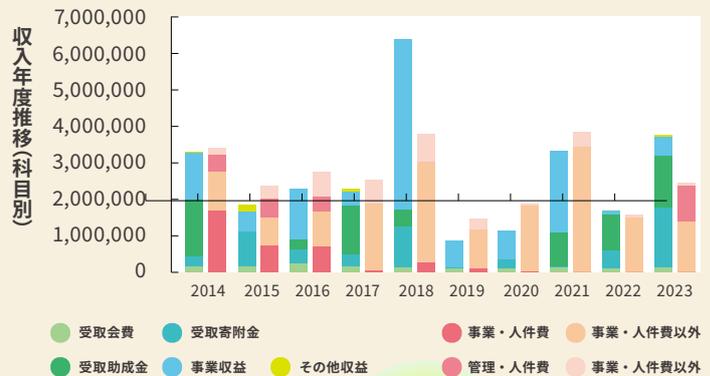
過去10年間の収支推移

NPO立ち上げ当初は放課後等デイ施設や就労継続支援A型施設の開設や運営支援を行い、2016年より体験コンテンツやポスターの提供などTU事業に軸足を移していきました。

2020年から担当者の不在やコロナ下などの影響により、TU事業の新たな提供方法を模索して現在に至ります。また、2018年に立ち上げた難病者の社会参加を考える研究会をはじめとしたTP事業でも収益化へ推進中です。

持続的な事業継続のために人件費の捻出が近々の課題でしたが、令和5年度は基盤づくりを課題化し、中期計画も策定して対策を講じました。

収入も上向きになってきており、令和6年度は中期計画初年度として両育わーどどのビジョン達成を目指して活動していきます。



Our Message 団体からのメッセージ

代表メッセージ

2023年度は、私たち両育わーどにとって第二創業期のはじまりのような一年になりました。

休止事業の再開や新規事業の立ち上げに、気がつけば全国各地から30名超のメンバーが集まりました。その大半は障害や難病のある20～70代の当事者やご家族で、それぞれに課題や背景があります。

私たちは「障害や難病を越え、互いに学び合い、誰もが望むように生きられる社会」の実現という大きなビジョンを掲げています。

社会へのアプローチはもとより、多様な困難や背景を持ち寄った私たちの中で、それらを解消するモデルを試行錯誤しながら自団体の中で作る事が、ビジョンの実現に繋がると考えます。

社会に目を向けると、厚労省の第7

期障害福祉計画において難病が大きく取り上げられ、24年度からは合理的配慮の義務化や指定難病の登録者証が始まりました。

私たちにできることは、世間に社会課題を認知してもらうために取り組みを続け、そのアプローチを提示していくことだと考えます。

困っている当事者が発信し続けられない限り、社会はなかなか問題に気づかず、対応も進みません。だからこそ、私たちは当事者として、支援団体として取り組みを続け、発信を続けていきます。

理事長
重光喬之



参与 齊藤幸枝

心臓病の子どもを授かったことから、患者会に係わる。地方公務員として定年まで地方行政に従事。この一年、難病者の就労に関する報道が増えてきました。労働人口減少とICTの発達、在宅勤務の可能性の高まり等、難病者の就労条件は少しずつ整っていく可能性が見えてきました。この波を意識しつつ、社会への発信をしていければと考えています。



参与 新宅圭峰

活動に参加して1年が経ちました。代表をはじめ、両育わーどには障害、難病のある方が多く関わっています。個々人が社会的な価値提供を追求しつつも、自身の症状や社会参加をする上での難しさ、必要な配慮を伝えあう雰囲気、ここにはありません。私も難病がありますが、関わり方を学ぶよい機会になっています。両育わーどの活動を通して、障害、難病のある方を含みすべての人が、生きやすく、働きやすい社会になるように取り組んでいきます。

理事・監事メッセージ

理事・会社員 岩野範昭



理事の岩野範昭です。日頃から両育わーどの活動に多大なるご支援を賜り誠に有難うございます。団体設立13年目を迎えましたが、我々のビジョン、ミッションの社会での重要性を痛感する日々です。2023年度は多くのメンバーの方々に参加頂き、今後の5年を見据えて、一人一人がミッションを明らかにし、活動目標を再度検討し掲げました。24年度はその大いなる一歩でありますので、<両育のある社会>を目指して、メンバー一丸となって活動していきます。

理事・社会福祉士 横山北斗



両育わーどは、障害や難病を抱える人々の選択肢を増やす取り組みを、障害や難病のある無しに関わらず、その目指す未来に共感するさまざまな立場の人たちで集い、協働して進めています。年を追うごとにその輪は大きくなっていきますが、目指す未来を現実にするには、1人でも多くの方の力が必要です。関心を持っていただき、寄付で応援いただき、一緒に活動していただく。ご無理のない範囲でぜひ力を貸してください。お待ちしております。

監事・税理士 池田良博



両育という言葉には、「共に学び、共に成長する」という想いが込められています。ここで、監事という役目を頂かなければ、知らずに過ごしていた事が沢山あります。お陰様で、私が世の中を見る目も、より広く、大勢の方を具体的に思い浮かべられるようになりました。今後も、関わることを恐れずに、成長していきたいと考えております。

参与 岩本真実



不思議な出会いから両育わーどにスルスルと引き込まれ1年間活動してきました。皆さんとの議論を重ね、私自身が障害・難病と共に働く事への学びを深める一年でした。それぞれの困難や背景を持ち寄り、解消法・選択肢を模索していく。その積み重ねが少しずつ社会へ浸透していく...誰もが活かされる社会の実現に向けて、一歩ずつ進めていきたいと思えます。

THINK UNIVERSAL 事業



須崎利雄 (運営マネージャー)
松本広海 (プログラム開発マネージャー)

私たちは2023年度から事業マネージャーとして活動しています。須崎は「PASE」の第6回PASE AWARD・大賞受賞時に心を打つプレゼンを担当しました。松本は新プログラムTHINK DIVERSITYの開発を積極的に推進し、2024年度の企業への提供に向けてチームと共に頑張っています。

それぞれの力を発揮し貢献できるよう、これからも頑張ります。

難病と就労の課題が社会で取り上げられる機会を増やすことを目指し、2021年末に配布した難病者の社会参加白書をもとに地方行政へアプローチをはじめ、首長をはじめ複数の地方自治体との意見交換。地方議会での一般質問のために議員勉強会の機会に当事者からの声を届けるなどの取り組みをしています。また中期の目標に向け活動を開始しました。

今年度の活動概要 ～難病者の社会参加を考える研究会～

研究会活動

- ① 難病者の社会参加を考える研究会の運営：1回
- ② 地方行政から難病者の就労・社会参加の機会を増やすためのアプローチ
 - 地方議員勉強会の開催：4回 延べ60名の地方議員参加
 - 一般質問 10自治体 12回
内訳
袖ヶ浦市・焼津市・目黒区・三次市・鹿嶋市・山梨県・北区・津山市・伊丹市、荒川区
・ 地方行政での事例
→ 複数自治体での調査、難病カフェ（目黒区）、採用枠（山梨県・日本初）等
 - 一般質問のたたき台作成：1件
 - 議会請願に向けたたたき台作成：1件
- ③ オンライン報告会の開催：1回

議員勉強会の開催

地方自治体との意見交換
地方議会での一般質問のために議員勉強会を定期開催しています



出展・メディア・執筆等

- 2024/2/25 RDD Japan 15周年イベント・テーブル展示：難病者の就労調査分析やポスターの展示、他団体との交流
- 2023/9 難病と在宅ケア 2023年9月号：制度の狭間で孤立する難病者の就労・社会参加に関する実態調査から見えてきたこと
- 2023/5/23 北海道新聞
- 2023/6/13 webメディア 難病者の社会参加を考える研究会「オンライン報告会2023」、企業側との対話を円滑に進めるため
- 2023/7/14 ヤフーニュース寄稿・MedicalDOC編集部取材
- 2023/11/27 東京新聞「病名知られたら働けない…」難病患者の4割強が雇用義務対象から漏れている現状 政府が制度見直し検討へ
- 2023/12/3 山陽新聞 病気伝え、職場の理解深めよう 県難病団体連絡協がシンポ
- 2024/3/1 読売新聞 [医療ルネサンス] 変わる難病法 <4>「就労の壁」



About 両育わーどについて

団体概要

(2022年3月現在)

名称 特定非営利活動法人両育わーど
所在地 〒150-0002
東京都渋谷区渋谷3-26-16 第5叶ビル5F
co-ba shibuya内
設立 2012年11月12日
役員 重光喬之(理事長)、岩野範昭(副理事長)、横山
北斗(理事)
監事 池田良博
正会員 10名
URL ryoiku.org

現在ボランティア、プロボノ、業務委託など多様な形態で30名前後のメンバーが活動しています。障害や難病のあるご本人、ご家族、その他関係者、取り組みに関心のある方々がそれぞれの持ち味を活かして関わっています。活動に関心をもっていただけましたら気軽にご連絡下さい。

沿革

- 2011.2 ● 有志6名で「療育は両育プロジェクト」として活動開始。
- 2012.11 ● 特定非営利活動法人格取得。調布市内の福祉現場の課題解決を活動拠点として関係者と協働実施。放課後等デイサービス及び就労継続支援A型の新規開設・運営サポートなどを実施。
- 2015.12 ● 両育サポーター事業開始。
- 2016 ● THINK UNIVERASAL事業開始。非交流エピソード共有サイト「feese.jp」立ち上げ(後のTHINK POSSIBILITY事業)。
- 2017.2 ● 東京都教育委員会オリパラ教育推進支援事業プログラム提供開始。
- 2018.10 ● 難病者の社会参加を考える研究会発足。『難病者の社会参加白書』を作成し、全国1915自治体へ配布。一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会(JPA)に準加盟。
- 2021 ● 「難病者の働き方データベース」の作成に向けて「はたらく難病ラボ」開始。
- 2022 ● THINK DIVERSITYプロジェクト開始

Donation 支援のお願い

オンライン決済 (マンスリーサポーター)

継続的にご支援をいただけます。右記QRコードまたはキーワード検索より詳細をご確認ください。



詳細はウェブで確認



両育わーど 継続寄付

検索

<https://readyfor.jp/projects/ryoiku>

銀行振込

三菱東京UFJ銀行
渋谷支店135 普通 口座番号0712658
トクビ) リョウイクワールド

ゆうちょ銀行
店名〇一八 普通 口座番号3553143
トクビ) リョウイクワールド

「つながる募金」

100円から支援いただけます。SoftBankのスマートフォンをご利用の方は、月額使用料で請求され、毎月の継続的な支援、または1回限りの支援を選択いただけます。SoftBank以外のスマートフォンをお持ちの方は、クレジットカードでのお支払いとなります。



*認定NPO法人ではないため寄付控除の対象外です。

「共に学び、共に生きる未来へ」

発行者：特定非営利活動法人・両育わーるど

発行日：第二版 2024 年 7 月 26 日